

2016年度 まあるい広場 事業報告

1. 事業活動重点事項の成果及び課題

① 就労継続支援B型

【作業活動】定員 20名 契約者数 29名

数年来、力を入れてきた作業の一つである創作的な活動において、今年度も昨年度を上回る成果があった。前年度に続き、全国規模の公募展で2名入選。御茶ノ水のギャラリーでのまあるい広場展（1週間の会期中30万円の売上）開催。Tシャツやグッズなどに絵をデザインとして活用するなどの製品化も好評だった。また、開設当初より取り組んでいる和紙は150枚、600枚というような大量注文にも応じられるようになり、利用者の漉きの技術も向上している。「体験教室」は、利用者が直接技術を伝える貴重な場である。近隣小学校に出向いたり、千葉市内のホテルを会場にした時には、作品展示と織りの体験教室を1週間行うなど、事業所内とは違ったお客様の広がりを持つことができた。5周年を迎えたギャラリーcue9では障害をもつ人、プロの作家、近隣の趣味のサークルの方など展示内容は様々だが、まあるい広場の活動からご縁ができた方々に使用していただいている。利用者の活動の一部としてのギャラリーの運営が形になってきた。また、三味線や歌のコンサートも行ったが、新たなギャラリーの使い方・人が集う場所としての活用の可能性を感じた。

【生活支援】

利用者の平均年齢は32.8歳。比較的若いとは思いますが、内科健診、歯科検診の結果などから健康状態が悪くなっていることがわかった。重度の人たちであり、自身で体調不良を訴えたり、自己管理することができないため、周囲の者がしっかりサポートしていかないと重大な病気に罹患することが予測される。数人の利用者の親は70歳後半で、家庭での生活に支援を必要としている。現在は短期入所の利用と、居宅支援等を利用して生活を組み立てている状態である。成人として精神的に自立していくことや、親から離れて暮らす場所、暮らし方を考えて実現していく時期を迎えている。

【地域】

これまでにつながりのできた近隣の方とは良好な関係が継続している。が、未だまあるい広場のことを知らない人もいる。入口に製品販売の店舗をつくったが、思ったほどの集客はできていない。豊富な品揃えや宣伝など課題が多いが、店舗等をきっかけとして、これまで以上に近隣の方との関係を深めていきたい。

就労継続支援B型（定員20名 契約者29名）

	開所日数	述べ利用日数	平均利用者数/日
就労継続支援B型	309	6526	21.1

②短期入所・日中一時支援事業 利用定員 短期4名・日中4名

他事業所での受け入れを断られている重度の利用者を、12月末の施設入所が決まるまで長期間受入れることが続いた。個別的な対応が必要な利用者を受け入れると、他の利用者を断ったり、本来は通所事業の作業活動に入る職員が欠けるなどの支障も生じたが、困っている方を最優先と考え、受入れ体制を作った。同様に自傷や他害があり、家庭生活に支障をきたしているケースも少なくないが、重度の利用者の短期入所を受入れる事業所は限られている。関係する事業所でこうした現状を改善していくことが必要だと考える。

短期入所・千葉県日中一時支援（各定員4）

	開所日数	述べ利用者数	述べ利用日数	平均利用者数/日
短期入所	343	421	1563	4.5
日中一時支援	343	200	593	1.7

2. 運営について

①研修 主な内部研修

- ・障害をもつ人の成人期の暮らしを考える（グループホーム管理者による講演等）
- ・障害をもつ人の人権を考える（やまゆり園の事件をうけて）
- ・障害をもつ人の表現活動について

②職員会議

- ・各作業相互の現状の把握や販売活動の促進に関すること。月の日程、行事への取り組み方について。短期入所・日中一時支援事業については、受入れや個別のケースの問題について適時検討した。

③処遇会議

- ・個別支援計画の作成・モニタリングに合わせて年3回全利用者についてのケース検討を行った。その他、処遇の難しいケースについては必要に応じて検討した。

◎建物の整備について

- ・食堂及び廊下の壁紙張替
- ・絵画作品等の収蔵庫設置